ワイヤレス・アクティブ・サブウーファー

ES250PWCH

取扱説明書

この度は、JBLワイヤレス・アクティブ・サブウーファー「ES250PWCH」をご購入頂きまして、誠にありがとうございます。
本製品をより良く理解して頂き、正しくお使いいただくために、ご使用前にこの説明書を最後までお読み下さい。

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社

1：開梱にあたって

外観、機能共に完全な状態でお届けされたことと存じます。万一損傷や故障が認められた場合には、直ちにお買い上げ店にご連絡ください。

梱包の中には、以下の内容が納められていますのでご確認ください。

- ES250PW 本体
- 4.5m RCA ピンケーブル(1 本)
- 1.8m RCA ピンケーブル(1 本)
- 電源ケーブル
- トランスミッターモジュール本体
- トランスミッター用電源アダプタ
- トランスミッター壁取付用金具一式
- 製品保証書
- 取扱説明書(本書)

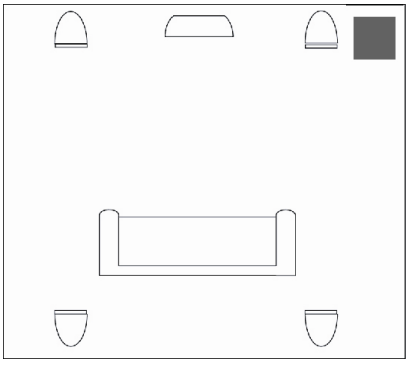
カートンボックスに保証書が添付されていますので、内容をご確認の上、大切に保管してください。
オリジナル・カートンボックスは、緩衝材等を含め、開梱後もそのままお手元に保管くださるようお勧め致します。
修理などのため本体を輸送されるような場合、オリジナル・カートンボックス以外のもので行った不完全な梱包により損傷が生じても、責任を負いかねますのでご注意ください。

2：保証について

保証は製品に添付された保証書の規定に基づいて行われますので、保証書をよくご覧ください。
お買い上げ店の捺印、ご購入年月日などの記載内容をお確かめの上、保証書は大切に保管してください。
誤った使用に起因した故障などに伴うアフターサービスは、保証期間の有無にかかわらず有償となります。また、送料はお客様負担となりますのでご了承下さい。

3：設置について

- 本機にはスピーカー外部への磁気の漏洩を抑えるための防磁処理は施されていません。テレビなどの受像機とサブウーファーが隣接している場合、テレビ画面に磁気の影響による色むらが発生する場合があります。この場合はサブウーファーシステムをテレビから離して設置してください。



- サブウーファーシステムは、再生する音の大きさに比例して、本体も振動をします。設置場所に傾斜があると、振動によりサブウーファーが動いてしまう恐れがありますので、必ず水平で平坦な箇所に設定してください。また、サブウーファー近くに置いたラックなどが共鳴する場合があります。このような時は、ラックにゴムやコルクなどの振動吸収材を敷くことをお勧めします。
- 温度、湿度、紫外線などの影響で寿命を縮める恐れがありますので、設置の際は照明器具の強い光や直射日光を避け、エアコンの吹き出し口やストーブなどの近くなど、高温になる場所を避けてご使用ください。また、車両内や直射日光の当たる窓際への設置はご遠慮ください。

＜セッティング＞

サブウーファーの扱う低音域は音の方向性を感じさせる指向性が弱いため、サブウーファーを置く場所は比較的自由に選定できますが、切れの良い明確な低音域を得るためにはできるだけ前方のメインスピーカーの近くに置き、しっかりとリスナーに向けてセッティングをしてください。また、部屋のコーナー近くに置くことで低域レベルをさらに高めることもできますが、逆に低域明瞭度が低下する恐れもあります。様々なソースを再生しながらベストポジションを探ってください。

4：操作と接続

本機の接続および操作部は、すべて本体背面に装備されています。サブウーファー本体、トランスミッターの各背面図を参照の上、接続、操作を行ってください。

【注意】
接続の際は、必ずアンプ、およびサブウーファー本体の電源を切ってから作業を行ってください。電源を入れたまま接続を行うとアンプやスピーカーを破損する恐れがあります。

＜操作＞

①メインパワースイッチ

本機のメイン電源のオン/オフを行います。メインパワースイッチをオンにすると、本機は動作状態になり、インジケーターが緑に点灯します。本機はオートパワー回路が搭載されており、入力信号が入ると本機天面「JBL」ロゴの下にあるインジケーターの色が変化します。

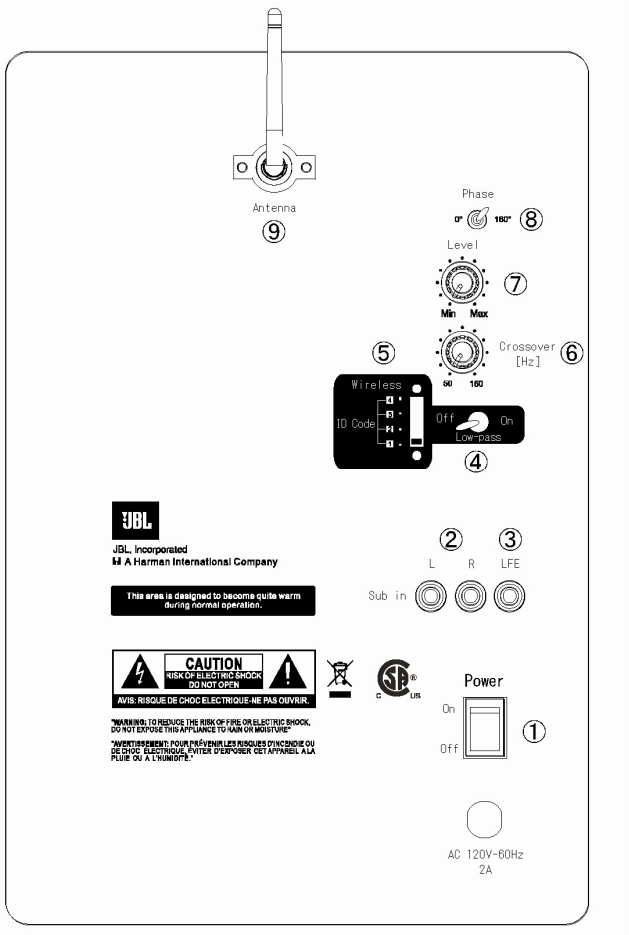
◆ワイヤレス接続のとき
音声信号が入力されるとインジケーターはオレンジに点灯します。入力信号が途絶えるとインジケーターは緑に点灯します。その約 10 分後にスタンバイ状態となり、インジケーターは赤に点灯します。

◆ワイヤード接続のとき
音声信号が入力されるとインジケーターは緑に点灯します。入力信号が途絶えると約 10 分後にスタンバイ状態となり、インジケーターは赤に点灯します。

※AV アンプの電源を落とす際は必ずサブウーファーがスタンバイ状態になったことを確認してから電源を切って下さい。
※入力センサーが信号を感知してから音が出るまで若干のタイムラグが発生する為、ソースによっては音声の冒頭の部分が再生されない場合があります
※ご使用状況、接続する機器や入力ゲインによって、スタンバイに切り替わる時間が異なる場合がございます。

【注意】
本機のオートパワー回路では、電源を完全にきることはできません。電源を完全に切るには、背面のメインパワースイッチ①をオフにしてください。
また、長期に渡り外出されるような場合は、メイン電源を切り、コンセントから電源プラグを外してください。

◆サブウーファー本体 背面図



②ライン入力端子

ご使用のアンプの接続方法に合わせて使用します。詳しくは 3 ページ＜接続＞をご参照下さい。

③LFE 入力端子

ご使用のアンプの接続方法に合わせて使用します。詳しくは 3 ページ＜接続＞をご参照下さい。

④ローパス切替スイッチ

ご使用のアンプの接続方法に合わせて切り替えます。詳しくは 3 ページ＜接続＞をご参照下さい。

⑤ID コード切替スイッチ/⑫トランスミッター・ID コード切替スイッチ

サブウーファーをワイヤレスで使用する際、送信する信号を 4 つの周波数チャンネルから選択します。
このとき、⑫の「トランスミッター・ID コード切替スイッチ」と番号を同じに設定してください。

※受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が改善されることがあります。

⑥クロスオーバーコントロール

再生する低域周波数の上限を 50Hz～150Hz の間で調整できます。つまみを「50」側に回すと上限の周波数が低くなり、「150」側に回すと上限の周波数が高くなります。メインスピーカーの低音と本機の低音が違和感無くつながって聴こえる周波数に調整してください。

⑦レベルコントロール

低域の出力レベルを調整できます。つまみを Max 側に回すと低域レベルが増大し、Min 側に回すと低域レベルが減少します。メインスピーカーの音量に合わせ、違和感の無いレベルに合わせてください。

⑧フェイズ（位相）スイッチ

本機から出力される低域信号の位相をコントロールします。本機をメインスピーカーと近接して設置している場合など、低域がスムーズにつながらない時があります。0° と 180° の両方で再生して違和感がない方を選択してください。

⑨ワイヤレス・アンテナ/⑩トランスミッター・アンテナ

音声信号を送受信します。

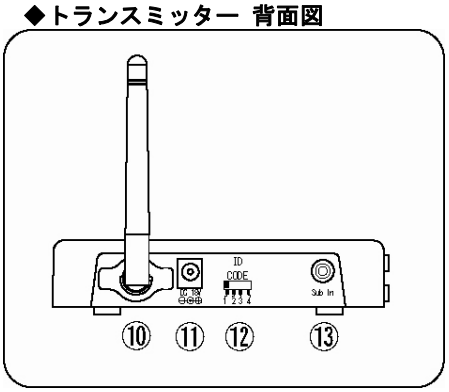
⑪トランスミッター・電源アダプタ入力部

付属の電源アダプタを接続します。その際、トランスミッター本体正面のインジケーターが緑に点滅します。⑤と⑫の ID 切替スイッチを切り替えて同じ番号にすると、緑の点滅から点灯にかわります。また、スタンバイ時にはこのインジケーターは赤に点灯します。

⑬トランスミッター・サブ入力端子

ご使用のアンプの接続方法に合わせて使用します。詳しくは**当ページ＜接続＞**をご参照下さい。

◆トランスミッター 背面図

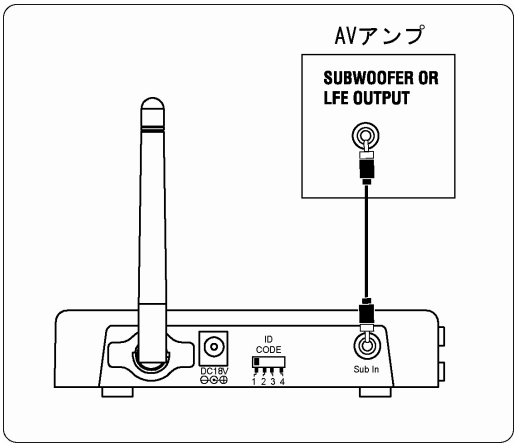


＜接続＞

接続方法は、組み合わせる AV アンプの形式により異なります。以下の説明と図をご参照の上接続を行ってください。

【注意】
AV アンプのサブウーファー用出力をご使用になる場合には、AV アンプの取扱説明書を参照して、適正なサブウーファー出力の設定を行ってください。

◆本機をワイヤレスで使用する場合



1.付属のトランスミッター用電源アダプタをトランスミッターモジュールの「DC 18V」端子⑪に接続します。

※電源アダプタは必ず付属のものをお使いください。
※電源アダプタは必ずトランスミッターモジュールに接続した後に、コンセントに接続してください。

2.任意の長さの付属 RCA ピンケーブル（1 本）を使用して、アンプの LFE 端子とトランスミッターモジュールの「Sub In」端子⑬を接続します。

3.サブウーファー本体の「ID Code」切替スイッチ⑤とトランスミッターモジュールの「ID Code」切替スイッチ⑫を同じ番号に設定してください。

A. LFE 入力による接続

デジタルサラウンド（DOLBY DIGITAL, DTS 等）に対応した LFE 出力を装備している AV アンプの場合は、ローパス切替スイッチ④を「Off」に設定してください。
この時、入力された信号は内蔵のクロスオーバーを経由せずに再生します。本機で調整できるのはレベルコントロール⑦のみとなります。

B. ライン入力による接続

LFE 出力が無く、プリアウトなどボリューム連動のラインレベル出力を持つ AV アンプやプリメインアンプに接続する場合は、ローパス切替スイッチ④を「On」に設定し、クロスオーバーコントロール⑥を調整してください。
この時、入力された信号は、内蔵のクロスオーバーを経由してクロスオーバーコントロール⑥で設定した周波数以下の低音で再生します。ボリューム回路も経由しますので本機側でも音量調整が可能になります。レベルコントロール⑥で調整してください。

◆本機をワイヤード接続(ケーブルを使用)で使用する場合

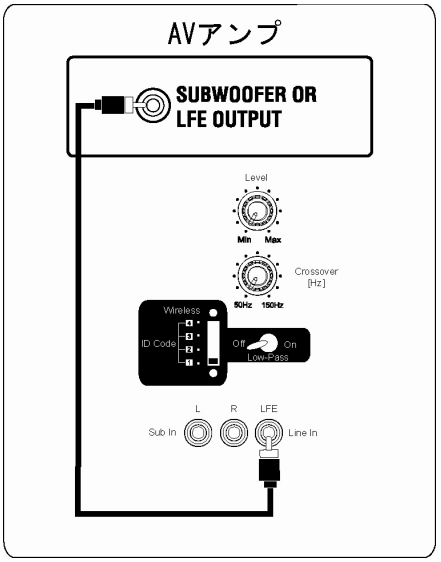
A. LFE 入力による接続

デジタルサラウンド（DOLBY DIGITAL,DTS 等）に対応した LFE 出力を装備している AV アンプの場合

1. 任意の長さの付属 RCA ピンケーブル（1 本）を使用して、アンプの LFE 端子と本機背面の「LFE」ライン入力端子③を接続してください。

2. ローパス切替スイッチ④を「Off」に設定してください。

入力された信号は、内蔵のクロスオーバーを経由せずに再生します。
本機で調整できるのはレベルコントロール⑦のみとなります。



B. ライン入力による接続

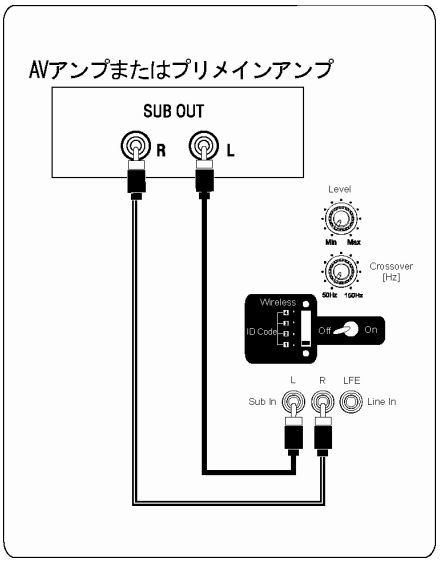
LFE 出力が無く、プリアウトなどボリューム連動のラインレベル出力を持つ AV アンプやプリメインアンプに接続する場合

1. 市販の RCA ピンケーブル（2 本）を使用して、AV アンプのラインレベル出力端子と本機背面のライン入力(L/R)端子②を接続してください。

入力された信号は､内蔵のクロスオーバーを経由してクロスオーバーコントロール⑥で設定した周波数以下の低音で再生します｡ボリューム回路も経由しますので本機側でも音量調整が可能になります｡レベルコントロール⑥で調整してください。

AV アンプ側のラインレベル出力がモノラルの場合､本機への入力は L と R どちらでも構いません。その際、空いている端子には何も接続しないでください。

※本機には長さの異なる RCA ピンケーブルが 2 本付属しております。「B. ライン入力による接続」をする場合は、別途同じ長さの RCA ピンケーブル 2 本をお近くの販売店などでお買い求め下さい。



ワイヤレス・アクティブ・サブウーファー使用上の注意

本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局システムとして、技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

○電波に関するご注意

本機は、2.4GHz 帯の周波数の電波を利用しています。この周波数帯の電波は、下記 1 が示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記 2 に示すような機器もあります。

1　2.4GHz 帯を使用する主な機器の例
- コードレス電話機
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- Bluetooth 対応機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- 無線ルーター
- ワイヤレス AV 機器
- マイクロ波医療器具

2　存在がわかりにくい 2.4GHz 帯を使用する主な機器の例
- 万引き防止システム
- アマチュア無線
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音が途切れて雑音のように聞こえたり、音が出なくなる場合があります。このような症状は電波干渉によるもので本機の故障ではありません。受信状況の改善方法としては、以下の方法があります。

- ◆ 電波を干渉している相手機器の電源を切る
- ◆ 干渉している機器の距離を離して設置する
- ◆ 本機の ID コードを切り替えて干渉されないチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信/受信ができなくなる場合があります。

- ■ 同じ周波数(2.4GHz 帯)を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなど機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。(環境により電波が届かない場合があります)
- ■ ラジオ、及びテレビの周辺

※テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

○使用範囲について

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声が途切れたり停止したりします。

- ■ 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合
- ■ 大型の金属製家具の近くなど
- ■ 人ごみの中や、建物障害物の近くなど
- ■ 同じ周波数(2.4GHz 帯)を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ
- ■ 集合住宅(アパート・マンションなど)にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは使用していなければ電波干渉はおこりません。

※ご使用の環境によっては、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このような時は、サブウーファー本体、またはトランスミッターの場所を動かしてみてください。トランスミッターとサブウーファーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声が途切れたりすることがあります。

【注意】
お客様、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

○安全にお使いいただくために

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しないでください。電子機器に誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい機器の例
- 補聴器
- ペースメーカー
- その他医療用電気機器
- 火災報知器
- 自動ドア
- その他自動制御機器

ペースメーカー、その他医療機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

【注意】
航空機器や病院など、電波の発生する機器などの使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

以上の使用上の注意をお試しになり、それでも音声が途切れたり、ノイズが発生したりする場合は、ワイヤレス接続ではなく、4 ページのワイヤード接続にて本機をお使いください。

5：保守

- お手入れの際は、乾いた布で表面を掃くようにして埃を取り除いてください。汚れがひどいときには、薄い石鹸水に柔らかな布を浸し、固く絞った状態で汚れを拭きとった後、乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどを含む揮発性の薬品で拭いたり、近くで殺虫剤を散布したりしないでください。
- グリルネットに埃などが付着した場合は、電気掃除機を使用して埃を吸い取ってください。
  その際、強く吸いすぎないように掃除機の強さを調節してください。また、グリルを水洗いしないでください。グリルに色むらやたるみが発生する場合があります。
- スピーカーのユニット表面に埃がついたときは、柔らかく乾いた筆や刷毛などを利用して丁寧に埃を払ってください。濡れた雑巾などは絶対に使用しないでください。
- スピーカーシステムは耐久消費財です。特にコーン紙の激しい動きを支えるウーファーエッジ部には多くのストレスがかかるため、その実用対応年数には限りがあります。また、温度、湿度、紫外線などの影響で寿命を縮める恐れがありますので、照明器具の強い光や直射日光を避け、エアコンの吹き出し口やストーブなどの近くを避けてご使用ください。

6：アフターメンテナンス

この製品の修理のご依頼は、お買い求めの販売店やお近くの弊社製品取り扱い販売店にお持ち込みいただくか、弊社東京サービスセンターへ直接宅配便などでお送り下さい。弊社からの出張修理や製品引取等は行っておりませんので、ご了承ください。

◆直接弊社東京サービスセンターに送っていただく場合は、「お客様のお名前」、「ご住所」、「ご連絡先」、「故障内容」、「事前見積もりの要、不要」を記載したメモを同封の上、オリジナルカートンに入れるか、輸送中の衝撃に耐えられる梱包状態で宅配便にてお送り願います。（送料はお客様負担でお願い致します。）

ハーマンインターナショナ株式会社
東京サービスセンター
〒135-0033　東京都江東区深川 1-6-29　結城運輸倉庫㈱内
tel.03-5639-3011／fax.03-5639-3044
e-mail:support@harman-japan.co.jp

7：仕様

モデル	ES250PW
使用ユニット	300mmポリプラス・コーン・ウーファー
周波数特性	25Hz～150Hz
最大出力	400W（rms）/700W（peak）
クロスオーバー周波数（fc）	50Hz～150Hz（連続可変、24dB/oct）
本体寸法（W×H×D）	400mm×502mm×436mm（グリル含まず）
	400mm×502mm×454mm（グリル含む）
トランスミッター寸法（W×H×D）	124mm×95mm×100mm
重量	19.5Kg

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社

製品に関するお問い合わせは、弊社マーケティング部 ☎03-3836-5660 まで

東京サービスセンター	:〒135-0033	東京都江東区深川 1-6-29　結城運輸倉庫㈱内	Tel.03(5639)3011	Fax.03(5639)3044
本社営業部	:〒110-0005	東京都台東区上野 5-7-7　公徳堂ビル 4F	Tel.03(3836)5641	Fax.03(3835)3084
大阪営業所	:〒532-0011	大阪市淀川区西中島 5-12-15　双葉ビル 602 号	Tel.06(6301)1396	Fax.06(6307)2861
福岡営業所	:〒816-0844	福岡県春日市上白水 4-40	Tel.092(573)2023	Fax.092(583)6050

2008/7